



気象台のお仕事

天気相談所四季折々(最終回)

大阪管区気象台 気象防災部 予報課 天気相談所 有本 敏雄

番外 アメダス

アメダスは、気象庁により1974年から順次全国展開された地域気象観測システムのことです。言葉の元は、Automated Meteorological Data Acquisition Systemの頭文字を並べた略称(AMeDAS:アメダス)です。

観測の種類は、降水量、気温、風向・風速、日照時間の4要素があります。冬期には積雪深を観測している地点もあります。

全国の観測地点数は、降水量のみの地点が約1,300カ所、4要素すべて観測している地点が約840カ所となっていて、平均すると降水量は約17km、4要素なら約21kmの間隔で観測していることになります。

大阪府には、降水量11カ所(能勢、茨木、枚方、豊中、大阪、生駒山、堺、河内長野、熊取、八尾、関空島)、4要素9カ所(能勢、枚方、豊中、大阪、生駒山、堺、熊取、八尾、関空島。但し、豊中、八尾、関空島は日照時間を除く)、積雪1カ所(大阪)が設置されています(図7)。近畿(2府4県)には、降水量97カ所、4要素64カ所(但し、日照時間は59カ所)、積雪16カ所が設置されています。

観測データは専用通信回線にて自動で気象庁に集められ、コンピューターで編集したのち気象台などに配信されており、気象庁のホームページ等で見ることができます。アメダスの観測網は、気象状況を時間的、空間的に細かく監視することができますので、集中豪雨や暴風などによる気象災

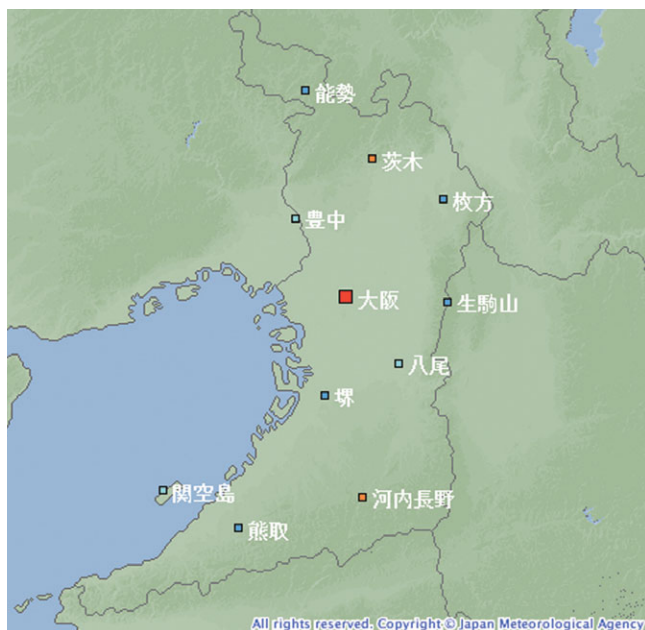


図7:大阪府内のアメダス配置図

害の防止等に役立っています。

3. おわりに

私は、2011年3月に42年間勤めた気象庁を定年退職し、再任用という形でこの仕事に就きました。どんな問い合わせがくるのだろうか？ちゃんと応えられるのだろうか？との不安は年数を経た今日も変わることはありません。緊張の日々ではありますが、天気予報の問い合わせなど未来のことをお答えすることが出来るなんて、凄いことだなと思いながらやりがいも感じています。一方では責任も重く、予報が当たりますようにと祈っている自分がいる状況です。

刻々と変化する自然現象に真摯に向き合い、正確、迅速、丁寧をモットーに、日々精進して市民の皆さまから愛され、頼りにされる天気相談所であるよう努力して参りたいと考えております。市民の皆さまに気軽にご利用いただければ幸いです。



著者紹介 有本 敏雄(ありもと としお)

鳥取県出身。防災士。2011年4月から再任用で大阪管区気象台予報課天気相談所技術主任。鳥取地方気象台を振り出しに、西郷測候所、大阪管区気象台、彦根、広島、松山、京都地方気象台等を歴任、2011年3月気象庁定年退職。趣味は写真、カラオケ、釣りなど。

一年間にわたって、気象台の方に業務の内容をご紹介いただきました。大阪管区気象台の皆様にお礼申し上げます。私たちが日々接している天気予報が作られるまでには、様々な方がそれぞれの部署で努力をされながら業務に携わるとともに、科学技術の進歩に応じてその成果を取り入れ、気象台の仕事も日々進化していることが分かりました。

気象は毎日の生活に密着した現象であるとともに、大気中に起こる現象を扱う自然科学の一分野という面もあります。そのため、気象現象についてそれが起こる仕組みと規則性についての理解を深めるためには、科学の知識が必要になります。科学館では、これからも気象に関する普及活動を引き続き行っていきたいと考えています。

また展示場には、実際に2013年11月まで豊岡特別地域気象観測所(かつての豊岡測候所)に設置されていた雨量計・および風向風速計を展示しています。

本文中で紹介されているアメダスが、実際にはどのような機器で測定されていたのか、機会がありましたら、ぜひご覧いただければと思います。



本シリーズ取りまとめ：江越 航(天文担当学芸員)